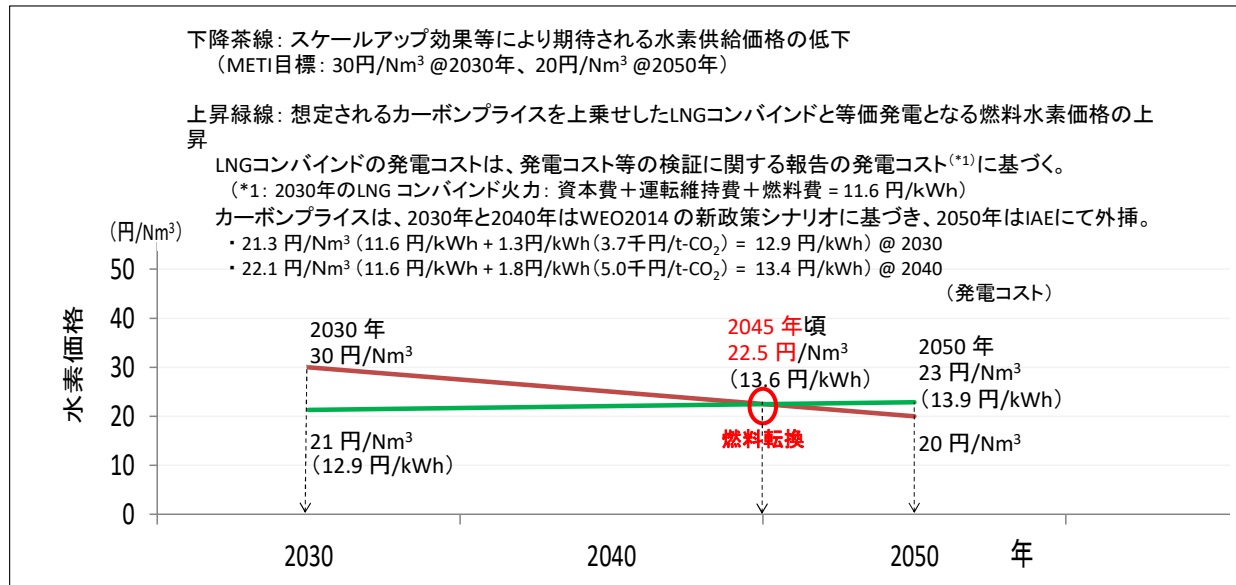


### 火力発電における LNGから水素への燃料転換

スケールアップ効果等により期待される水素供給価格の低下と、想定されるカーボンプライスを上乗せしたLNGコンバインドと等価発電となる燃料水素価格の上昇が交差する所を燃料転換点とし、水素価格・水素需要量・時期を参考（議論のたたき台）として示した。

その結果、発電所への水素供給価格が **22 円～23 円/Nm<sup>3</sup> レベル**、国内水素需要量が合計で **750 億Nm<sup>3</sup>/年 レベル**になると想定される **2045年頃**に燃料転換が起き得る。

### ＜燃料転換時の水素価格の推定＞



### 火力発電におけるLNGから水素への燃料転換の可能性検討(水素価格と時期)

【補足】スケールアップ効果等により期待される水素供給価格の低下と  
想定されるカーボンプライスを上乗せしたLNGコンバインドと等価発電となる燃料水素価格の上昇の関係

### ＜燃料転換時の水素需給量の推定＞

METIの目標値(34 億Nm<sup>3</sup>/年 @2030年、1,120億 Nm<sup>3</sup>/年 @2050年)や、KHIの公表データ(下図：  
500 億Nm<sup>3</sup>/年 @2040年、1,000億 Nm<sup>3</sup>/年 @2050年)等を踏まえ、750 億Nm<sup>3</sup>/年 @2045年と推定した。

#### NEDO水素エネルギー白書 公表セミナー

主催：独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構  
開催日：平成 26 年 7 月 30 日(水) 14:00-17:05 シンポジウム  
場所：東京コンファレンスセンター有明4階 ホールB

### さらなる将来に向けて

